

画論 31th The Best Image 受賞報告

小樽掖済会病院 大家佑介

皆さま、はじめまして。小樽掖済会病院の大家佑介と申します。この度、画論 31th The Best Image 【Aquilion Precision 部門】で優秀賞を受賞させて頂き、東京で行われた最終審査に参加致しましたので、ご報告致します。

CT 部門は大きく分けて 1-160 列部門、Aquilion ONE 部門、Aquilion Precision 部門に分かれており、さらに 1-160 列部門、Aquilion ONE 部門には心血管部門があります。各部門の優秀賞受賞者による最終審査が口述にて行われ、最優秀賞やテクニカル賞などが発表されます。社会人になり賞や順位を競う場面はなかったので、久しぶりの独特な雰囲気にとっても緊張しました。

当院では、2022 年に Aquilion Precision を導入以降、全ての検査で 0.25mm の画像収集を行い、高精細画像を提供しています。特に手術支援画像において末梢の微細な血管の描出能が格段に向上し、高分解能 CT の力を実感していました。今回応募した脾彎曲部に存在する横行結腸癌の症例では、原発巣周囲の血管走行の詳細な把握がリンパ節の郭清範囲に大きく影響します。そこで私たちは高分解能 CT の能力を臨床に落とし込むために、造影タイミングを末梢が描出しやすいように変更し、大腸の切除予定範囲を VR 画像にて強調するなどの工夫を行いました。その結果、従来描出が困難であった辺縁動脈および直動脈が描出され、リンパ節郭清を 1 領域のみにする低侵襲な手術に繋がりました。

残念ながら最優秀賞の受賞とはなりませんでしたが、患者さんの負担軽減に直接寄与した内容が評価され非常にうれしく思っております。最終審査を振り返ると、どの演題も臨床面と撮影技術の双方が揃った素晴らしい演題ばかりだったと思います。正直なところ…臨床面には少し自信がりましたが、撮影技術の面ではまだまだな部分がありましたので、まさか最終審査に残るとは思っていませんでした。おそらく「双方が揃っていないと…」なんて思っ



ている方が多いのではないのでしょうか。もちろん私もそのように思っていました。しかし、これからは少しでも患者さんへのメリットになる検査やちょっとした撮影の工夫などでも応募してみようと考えを改めてチャレンジしようと思います。皆さんも少し肩の荷を下ろして挑戦してみてはいかがでしょうか。

今回の画論を通して、CT 画像が手術や診断にどのように繋がっていくのか、医師がどのような画像を求めているのかをより深く知る良い機会となりました。これからも高精細 CT の有効性を追求し、患者さんの有益となるような検査を行っていきたいと思います。もちろん「画論 The Best Image」に関しても、積極的に取り組んで最優秀賞を目指し努力していきたいと思います。